

1. 調査報告概要表

作成日平成21年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1072600446
法人名	有限会社たじま
事業所名	グループホーム かやの木
所在地	群馬県吾妻郡中之条町1775-1 (電 話) 0274-75-5340
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年8月4日

【情報提供票より】(21 年 7 月 20 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13人
利用定員数計	18 人
常勤 8 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.0 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~33,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4)利用者の概要(7 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2 5 名	
要介護3	9 名	要介護4 4 名	
要介護5	0 名	要支援2 0 名	
年齢	平均 88.6 歳	最低 79 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団寿山会 田島病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的な環境の中で、その人が「その人らしく良いかげん」で・・・という理念に則り、利用者の気持ちに沿った支援を心掛けている。ホーム内では職員同士の挨拶から始まる場面場面の声かけが明るく聞こえてくる。また、家族が訪問した時には「来てくださってありがとうございます」と家族が訪問して良かったと思える気持ちの良い声かけも徹底されていて、利用者と家族の心情を理解した支援が感じられた。系列の病院が隣にあることも将来を見据えた安心感が裏打ちされているようで、利用者の穏やかな顔が見受けられた。音楽療法や調理レクレーション等の楽しみごとを通して張りのある生活を提供しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスの理念については、法人・役職員が開設以来大切にしている理念のため、再検討はしていない。重度化や終末期に向けた方針の共有では、まだ指針はないが、系列法人の病院長が最後までという考えを持っているので、利用者・家族・ホームの共有は入居時に図られている。文章化はされていないが、当ホームに入居した時点で先を見越した共有は図られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、ミーティング時に全職員の意見を集約し管理者が取りまとめ、完成後また職員に見せて意見を聞いた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は前回の外部評価後2度行われた。行事参加も兼ねてクリスマス会と消防訓練時に行われた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年4回、ホーム便り「かやの木だより」を発行し家族へ配布している。家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、意見や苦情等を聞くように努めている。苦情受付窓口(管理者)が明記されており、出された意見や要望等には、職員間で話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事をどん欲に集め、出かけられるところには極力出かけるようにしている。地域のお祭りの参加や隣の高齢者住宅の入居者と交流を持つことも心掛けている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所設立時に作成されたホーム独自の理念を掲げている。地域密着型サービスのあり方を盛り込んだ理念ではないが、常に地域とのふれあいを意識しながらの取り組みは行われている。	○	グループホーム設立以来の理念を代表者・職員は大事にしている。現理念でも地域との交流等を意識して活動しているのは確認できたが、理念はサービス提供の柱となるものなので、地域密着型としての理念を掲げてその上で、サービスを具現化していくことも検討してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の業務時に必要とする機会には理念を確認している。モニタリング時にも問題点にさしかかった場面で、理念に沿っているのかどうか考えて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々には散歩時に挨拶をしたり、近隣から畑を借りて作業時に交流を持っている。地元のお祭りや行事に参加したり様々なところに声をかけたりしながら、地域の情報をもらえるように働きかけて、日頃から地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価については、ミーティング時に意見を集めて、集約し、管理者が作成して、出来上がりをまた職員に見せた。外部評価結果については、ミーティング時に確認した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は前回の外部評価以来2度開催されている。クリスマス会と消防訓練時に行われた。サービスの状況や外部評価結果を報告し、話し合いを行っている。ご家族にはその都度案内を出している。	○	概ね2ヶ月に1度の開催をして、メンバーにホームの実態をお知らせしながら、地域からより情報が得られるように努力してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の文化祭に参加している。介護保険申請には家族の代行で伺っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1度、ホーム便り「かやの木だより」を発行し、行事や生活の様子・入職者の挨拶等を家族に報告している。身体状況等の変化については、個別に文書や電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には、「来てくださってありがとうございます」と挨拶している。話しやすい雰囲気づくりに留意して、気づいたことを何でも話してもらおうと苦情や意見等を聞くように努めている。苦情受付窓口が明記されており、出された意見や要望等にはミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者への支障がないように努めている。代わる場合には、利用者・家族等に自己紹介し、日常生活で利用者と話をして慣れてから、業務に入ってもらい。業務は先輩職員について日勤・夜勤の手順等を教えてもらい、見極めてから独り立ちとなる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ありがとうの感謝の言葉や、日常の挨拶を大事にしている。認知症高齢者グループホーム管理者研修・介護実践者研修や法人内の医療機関の研修に参加している。地域密着型サービス連絡協議会の大会に参加し事例発表を行っている。研修参加者はミーティングで報告を行い、資料は全員で閲覧し共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。大会に参加したり、他施設の管理者との交流や、ケアマネジャーとも交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅の場合は利用のデイサービスに伺ったり、自宅に伺って面会し、困っていたり、戸惑っている場面があれば、その内容により対処している。ホームの見学にも対応している。また、入居時は、家族・法人の病院長、事業主、管理者が参加して一人ひとりに合わせて、徐々に馴染めるよう配慮している。帰宅願望がある時には寄り添って話を聴いたり、一緒に帰ったりして納得や気分		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の生活場面では、家に帰りたいと訴えがあれば、「いつでも帰れますよ」と説明したり、一緒に帰ってみたりして、落ち着きを引き出している。畑仕事や料理の仕方でも教えてもらうことも多い。心情を察した、共に支えあう関係作りに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人の好きなもの・好きなことを聞かせてもらったり、日々観察して、予測しながら、本人の言葉や表情、行動等から真意を推し量るようにしている。出来るだけ好まない物を避けるように支援している。「特別な日（誕生日）」を設けて、一人ひとりの欲求を満たせるように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等から意向確認を行い、介護計画に反映させている。ミーティングで代表者を含めて状態報告等や話し合いを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度のモニタリングと3ヶ月毎の見直しを行い、状態の変化に応じて現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の希望や状況に応じて、眼科・歯科の受診・通院や買物代行等の必要な支援は柔軟に対応している。また隣接の病院に設置してある自動販売機利用等の支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の意向を確認し、利用者全員が希望するかかりつけ医で定期・緊急時に適切な医療を受けている。受診結果も報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族、隣接の病院長、代表者、管理者が話し合い、医療連携体制もあり、ホームでの生活をホームが出来るところまで行い、その後は隣接の病院で・・・という共有が入居時よりなされている。だからこそ、このホームを選択された利用者もいる。段階ごとにホームが家族と話し合い、身体状態を説明しながらホームでの生活を支えていこうという思いも共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	態度や言葉かけ・支援方法で一人ひとりの尊厳を傷つけないように職員に伝えて、注意もしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やその時の気持ち等を尊重しながら、食事と受診以外は決まりごとは無い。ご家族と出かけたり、レクリエーション等、買い物・電話をかけたりして、その人のペースで過ごしてもらえるよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
tok					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の好みを取り入れて献立を作成している。畑で収穫した野菜は、食材として調理されている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるように支援している。調理レクリエーションを実施して、食事やおやつが楽しめるように支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴準備は毎日行っている。体調等に応じて清拭や足浴も行っている。足浴ヒーリング等の様々な試行で利用者の「気持ちいい」という気分を引き出そうとしている。週に2～3回は入浴できるように支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、雑巾縫い・花の手入れ・野菜作りと収穫のタイミング・料理等の役割の支援をしている。ドライブ・みんなで作った弁当持参の外出や読書・音楽療法・料理レクリエーション・系列のデイサービスでのフルートコンサート・季節の行事・ボランティアの訪問等で楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調・希望に応じて、畑作業・隣接の高齢者住宅への訪問・散歩・ドライブ・買物に出かけて日常的に外出支援が行われ、気分転換が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、チャイムや職員の見守りにより利用者の安全を確保しながら、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、総合訓練として、防災避難訓練を実施している。地域の消防隊・民生委員・近隣の方が参加して、通報・避難・消化訓練を行っている。緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を理解し、食器も工夫している。食事量や水分量はチェック表に記載し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダの格子にはかぼちゃがツルを這わせていて、季節感とさわやかさが感じられる。各所にソファが配置され、季節の飾り物や生花・ぬいぐるみや利用者の作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洋服箆笥、衣装ケース、家族の写真や猫の写真、時計、縫いぐるみ等馴染みのあるものや好みのもので持ち込まれており、本人が落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		